

P3-0882

「病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標」の検者間信頼性と内容妥当性の調査報告

松葉 好子^{1,2)}, 内山 靖¹⁾, 臼田 滋¹⁾, 原田 和宏¹⁾, 青山 誠¹⁾, 永富 史子¹⁾, 半田 一登¹⁾

¹⁾病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標作成事業作業部会,

²⁾横浜市立脳血管医療センター

key words 尺度開発・多職種連携・信頼性

【目的】近年、チーム医療、地域連携への期待は高まり、地域包括ケアに向けて継ぎ目のないリハビリテーション支援が一層必要となるが、医療や介護、各職種での評価指標は多様であり、領域間や多職種間での情報共有は難しい。日本理学療法士協会は、平成 24 年度厚生労働省老人保健健康増進等国庫補助金事業で、「病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標」の作成を行った。本演題では、評価指標の信頼性と多職種を対象とした妥当性を報告する。

【活動報告】本事業は、デルファイ法を用いて、活動・参加に対応する 8 項目と心身機能に対応する 7 項目の計 15 項目からなる評価指標を作成した。検者間信頼性は、PT、OT、ST の計 35 名 (平均経験年数 9.5, SD=7.3) で検証した。同一患者・利用者 1 名に対し 2 名の検者で、出来る限り異職種間の評価とした。被験者は 21 名で、基本属性は年齢、病期間でほとんど偏りがなかった。級内相関係数 (2, 1) と weighted κ 係数は、カテゴリーに関わらずそれぞれ 0.9 ($p<0.01$) 以上、0.6 ($p<0.01$) 以上で検者間信頼性が高かった。妥当性の検証は、全国の PT、OT、ST、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、介護福祉士、介護支援専門員の計 10,000 名にアンケート調査した。有効回答数は 3,262 名 (有効回答率 32.0%) で、勤務地域の偏りはなかった。実行可能性は評価時間で検証し、平均 9.2 分 (SD=7.4) であった。内容妥当性は評価指標の印象で、「簡便性」、「病期を問わない評価」、「疾患を問わない評価」、「多職種共有の可能性」での肯定的回答は 70% 程度であった。

【考察】作成した評価指標は簡便に患者・利用者の状態像を把握でき、病期や疾患を問わず多職種間で共有しやすいと考えられた。今後は、病期別や疾患別からの検証と、縦断的検証が必要である。

【結論】各病期を通じて状態変化を捉え、医療機関や地域でのリハビリテーション必要度を共有する評価指標につながると考える。